

教科	福祉	科目	社会福祉基礎		必修・選択の別	必修
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 社会福祉基礎福祉301			副教材等	実教 社会福祉基礎学習ノート	
分割履修の有無(学年)	有(1)			授業形態	一斉	

科目の到達目標	<p>1 社会福祉の基礎的な資質・能力を日常生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。</p> <p>2 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付ける。</p> <p>3 福祉の見方・考え方を働かせて、福祉社会の創造と発展のため、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
習得させたい力	<ul style="list-style-type: none"> 対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築するための技法を学び、また、対人関係形成のためのコミュニケーションの基本的な技法活用できる。 社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して、各制度の意義や役割、現状と課題について理解できる。

学習の評価	評価の観点	A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	<p>・介護実践に必要な知識という観点から、社会保障や高齢者・障害者の制度、施策について理解している。</p> <p>・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、対象者の生活を地域の中で支えていく能力を身につけている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。</p>
	②思考力, 判断力, 表現力等	<p>・人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を身につけている。</p> <p>・対人援助技術やチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、実践の場で活用できる能力を身につけている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。</p>
	③学びに向かう力, 人間性等	<p>社会福祉に関する興味、関心をもち、現場実習や身近な生活において意欲的に取り組む。</p> <p>加えて、自主学習等を行い、知識の定着と技術の向上を目指す態度を身につけている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真剣に取り組む姿勢があり、現場実習やグループ活動等で実践することができる。</p>

提出物	学習を記録したプリント、レポート、学習ノート
評価方法	評価の観点別に、年4回定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士国家試験受験資格 介護職員初任者研修 社会福祉介護福祉検定1～4級

教科	福祉	科目	介護福祉基礎		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	7 実教 福祉302 介護福祉基礎			副教材等	実教 介護福祉基礎学習ノート	
分割履修の有無(学年)	有(1年)			授業形態	一斉	

科目の到達目標	介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。
習得させたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間の尊厳」について理解し、介護を必要とする方々へのかかわり方や支援の仕方を知ることができる。 ・自立支援等、介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身に付けることができる。 ・ICFの考えに基づき、その方の生活をイメージすることで、どのような支援が必要かを考えることができる。

学習の評価	評価の観点	A：十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	高齢者や障害者に対する基礎的・基本的な介護の理念や地域を基盤とした生活の継続について理解している。また、介護者としての倫理観を学ぶことで、介護の意義や役割を理解している。	評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。
	②思考力, 判断力, 表現力等	介護に関する諸問題の解決を目指して自らの思考力を深めるとともに、介護を必要としている人の現状について多面的・多角的に考察している。	評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。
	③学びに向かう力, 人間性等	介護に関する諸問題について関心をもち、よりよい介護を目指して意欲的に取り組むと共に創造的、実践的な態度を身に付けている。	評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真剣に取り組む姿勢があり、グループ活動等でリーダーシップを発揮することができる。

提出物	学習を記録したプリント、レポート、学習ノート
評価方法	評価の観点別に、年4回定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～4級

教科	福祉	科目	介護総合演習		必修・選択の別	必須
単位数	1	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	中央法規 新介護福祉士養成講座 第10巻介護総合演習・介護実習	
分割履修の有無(学年)	有(1, 3学年)		授業形態	一斉		

科目の到達目標	○福祉に関する事例研究などの学習を通して、自己覚知を図りながら、様々な課題を発見し、解決に導く能力を身につける。
習得させたい力	○1年次までの福祉科目で学習した内容を活かして、地域社会や家庭生活での健康や介護に関する課題解決の能力を育てる。

学習の評価	評価の観点	A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	事例研究などの学習を通して、福祉に関する知識と技術の深化、総合化を図っている。福祉に関する諸活動を合理的に計画し、地域社会や家庭生活に活用出来る能力を身に付けている。	評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。
	②思考力, 判断力, 表現力等	事例研究などの学習を通して、福祉に関する知識と技術の深化、総合化を図っている。	評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。
	③学びに向かう力, 人間性等	課題解決能力や自発的、創造的に取り組む姿勢を身につけている。	評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真剣に取り組む姿勢があり、グループ活動等でリーダーシップを発揮することができる。

提出物	○授業で使用したファイル, 事例研究に関わる記録物等
評価方法	○定期考査(年4回) ○授業への取り組み姿勢, 提出物(事例研究に関わる記録物等) を総合的に評価
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	介護実習		必修・選択の別	必修
単位数	5	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習			副教材等	中央法規 新介護福祉士養成講座 第10巻介護総合演習・介護実習	
分割履修の有無(学年)	有(1、3学年)		授業形態	実習・演習		

科目の到達目標	・利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う。
習得させたい力	○実習Ⅰ 多様な介護現場における実習(障害者支援施設・同行訪問・グループホーム・入所施設) ・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ○実習Ⅱ 個別ケアのための継続的な実習(入所施設) ・継続した実習を行う中で、サービス利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価、介護計画の修正など一連の介護過程を実践する。

学習の評価	評価の観点	A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解している。 ・利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認を行っている。	評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。
	②思考力, 判断力, 表現力等	多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解している。	評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。
	③学びに向かう力, 人間性等	利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う態度を身につけている。	評価の規準を十分に満たし、実習に真剣に取り組む姿勢があり、利用者・家族・職員と積極的に関わることができる。

提出物	実習日誌・評価表
評価方法	評価の観点別に、実習への意欲、実習日誌等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	・介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	必修・選択の別	必修
単位数	3	履修学年	2	履修学科	福祉科
使用教科書	実教出版 こころとからだの理解		副教材等	新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	
分割履修の有無(学年)	有(1、3学年)		授業形態	一斉(座学)	

科目の到達目標	<p>○自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>○自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>○健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
習得させたい力	<p>介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成する。</p> <p>○介護に従事する者として、人間の心身の構造や機能を理解できる。</p> <p>○要介護者に対して安全で安楽な介護技術を提供することができる。</p> <p>○人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方ができる。</p>

学習の評価	評価の観点	A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解している。 	評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。
	②思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・より安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察している。 	評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。
③学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・介護に従事する者として人間の心身に関心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して意欲的に取り組んでいる。 	評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真剣に取り組む姿勢があり、グループ活動等でリーダーシップを発揮することができる。	

提出物	学習を記録したプリント、レポート
評価方法	評価の観点別に、年4回定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～3級

教科	福祉	科目	生活支援技術		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	7 実教 福祉303 生活支援技術			副教材等	自主教材 新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ	
分割履修の有無(学年)	有(1, 3 学年)		授業形態	一斉		

科目の到達目標	<p>○自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解する。</p> <p>○基礎的な介護の知識と技術を習得する。</p> <p>○様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を養う。</p>
習得させたい力	<p>○自立を支援する介護のあり方に関心、意欲を持って学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指すことができる。</p> <p>○介護を実践していく上でその望ましい方法を利用者視点で考え表現できる。</p> <p>○基礎的な介護の知識のもと、利用者の生活状況を的確に把握し自立と安全を重視した活動を実践できる。</p> <p>○基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解でき、知識として身に付けている。</p>

学習の評価	評価の観点	A：十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
学習の評価	①知識及び技能	<p>基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解し知識として身に付けている。</p> <p>介護を実践していく上でその望ましい方法を利用者視点で考え表現する能力を身に付けている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。</p>
	②思考力, 判断力, 表現力等	<p>介護を実践していく上でその望ましい方法を利用者視点で考え表現する能力を身に付けている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。</p>
	③学びに向かう力, 人間性等	<p>自立を支援する介護のあり方に関心、意欲を持って学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指す態度を身に付けている。</p>	<p>評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真剣に取り組む姿勢があり、グループ活動等でリーダーシップを発揮することができる。</p>

提出物	学習を記録したプリント、レポート
評価方法	評価の観点別に、年4回定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～3級

教科	福祉	科目	福祉情報		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	実教出版 福祉情報活用	
分割履修の有無(学年)	無			授業形態	一斉	

科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させる。 2. 情報モラルやICT機器の活用法など、情報に関する知識と技術を習得させる。 3. 福祉分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力を育てる。
習得させたい力	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉に関する各科目との関連を図り、情報及び情報手段の特性について、実際の、体験的に学習できるよう実習を行い、具体的な事例を通して、情報活用の実践力を身に付ける。 2 個人のプライバシーや著作権など知的財産の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任などの情報モラル及び情報通信ネットワークシステムにおけるセキュリティ管理の重要性について理解する。 3 情報機器や情報通信ネットワークを利用して情報の収集、処理、分析、発信ができる。 4 福祉サービスの中で情報機器を活用したサービスや情報の活用法を理解する。 5 情報機器を活用した高齢者・障害者の自立生活支援の方法について具体的に理解する。

学習の評価	評価の観点	A：十分満足できる B:おおむね満足できる C:努力を要する	
		評価の規準	Aとする具体的な姿
	①知識及び技能	福祉情報についての基本的知識や実習内容について理解しており、機器操作などについて正しい技能を身につけている。	評価の規準を十分に満たし、実践する知識と技能を備えており、様々な場面で活用することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	福祉情報についての基礎的な知識と技術を活用し、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけ、表現している。	評価の規準を十分に満たし、身につけた知識と技術を活用して身近な課題を解決する能力と意欲がある。
	③学びに向かう力、人間性等	福祉における情報活用の意義や役割を理解し福祉情報活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、適切に活用し、実践できる。	評価の規準を十分に満たし、授業や課題に真摯に取り組む姿勢があり、グループ活動等でリーダーシップを発揮することができる。

提出物	学習を記録したプリント（ファイル）、課題、実技で作成した文書等
評価方法	評価の観点別に、定期考査、実技テスト、小テスト、提出物等、学習への取り組み状況などを総合的に評価
関連する資格・検定	